

鹿ノ又沢支流二の沢（仮称）

1991年5月18日

二の沢(仮称)は、ずっと暗い樹林帯の中の登りである。林道から、鹿ノ又沢本流を渡って取り付く。黒い頁岩かチャートの上を流れる沢で、小滝が5個かかっている。その中で、4番目の3m滝がちょっと面白い。落差は小さいが、大きな釜をもつ小滝である。左岸の岩場の上にルートを求めれば簡単に越せるが、それでは面白くない。釜の左岸をへつるようにして取り付くが、ホールドが細かく、ちょっと苦労した。

あとは暗いが平凡な登りが続く。右に支沢を2本分けると、もう沢はおしまいである。明るい造林地に飛び出し、沢は細いミゾと変わってしまった。

(記・

[タイム] 二の沢出合(8:15)→終了(8:45)

大戸岳周辺の沢

白松沢右俣

1991年7月27日

L補

二俣まで西・小野パーティと同行する。9時25分、中俣に入る西・小野パーティと別れて右俣に入る。登るにしたがって斜度はきつくなるものの、滝はかからない。支沢も両側から1本ずつ入っただけで、単調な沢である。

10時10分、ついに水が濁れてしまう。濃いヤブを登ること50分、ようやく平坦な稜線に出る。今までのヤブほど濃くはないが、大戸岳への登山道に出るまでは、更に30分間のヤブこぎが必要であった。12時大戸岳の山頂に到着。

(記・

[タイム] 白松沢出合(7:25)→取水堰(7:35)→右俣出合(9:10, 9:25)→沢終了(10:10)→大戸岳(12:00)

白松沢中俣右沢

1991年7月27日

Li

夏合宿の一貫として、大戸岳の南面の沢、白松沢に入る。我々の目標は中俣右沢を遡行し、深沢の下降である。白松沢の右俣を遡行し、中俣左沢を下降予定の橋内・鈴木パーティと最初は同一行動をとる。

出合からすぐナメが断続した時は、この先期待がもてると思ったのだが、導水管と取水堰を過ぎたあとは、全く平凡となってしまった。出合から取水堰までが10分、そのあと右俣出合まで90分間は、河原歩きがえんえんと続いた。

9:10右俣出合。ここで小休止をとり、橋内・鈴木パーティと分かれて中俣に入る。沢はこのあたりから傾斜を増してきたが、滝はかからない。

9:45左沢出合。左沢はカレ沢となっている。右沢はもう細いが、兩岸が狭まり、なにかありそうな予感がする。案の定、小滝が連続して現われた。小滝5つを越えた先の6mは、右岸を直登する。下部はシャワークライムとなった。続く6m2条の滝は、若干ナメ状。私は左の水流にそって、小野さんは右の水流にそって、それぞれにルートを求めて登る。次の4mは、左岸の草付きを登って捲き、最後の3mは、左岸の草付きを微妙なバランスで越し、小野さんにシュリンゲを出す。ここがこの沢のハイライト。あとはルンゼ状となった急傾斜のミゾを登り、11:20大戸岳東方の登山道に出る。

[タイム] 白松沢出合(7:25)→取水堰(7:35)→右俣出合(9:10, 9:25)→沢終了(11:10)→大戸岳(11:30)

